

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 14日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	PKU	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学は中国最高峰の大学であり、日本における東大と同じ位置づけがなされています。中国の将来を背負う学生と交流することが出来ます。

参加した動機

私が留学を思い立ったきっかけは、中国語の学習を通じて、以前から中国に対する興味があったことと、今年の春に上海を訪問したことです。3泊4日の短い旅行でしたが、日本と中国の生活や文化の違いを肌で感じる事が出来ました。また、中国でも日本の企業が数多く展開していることを知り、日本と中国での経営戦略の違いに興味を持ちました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出の期限を守ることが大切です(私は締め切りの直前になってしまいましたが…)。申し込み時の書類だけではなく、海外旅行保険の申し込みや、渡航情報届など、提出しなければならない書類が多いです。スケジュール管理を特にしっかりと行う必要があります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国での13日間の滞在だったため、ビザの申請は行っておりません。15日以上の特長期間の旅行となる場合には、ビザの申請が必要となります。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に実施しておりません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学に加入しました。締め切りを守りましょう。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特に実施しておりません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

日常会話やプレゼンなど特定の場面を想定した英語の準備を行うつもりでしたが、多忙のため取り組むことができませんでした。英語に自信がない方は少しでも英語の準備をしておくことをお勧めします。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

上にも述べましたが、英語の勉強を多少しておく方が良いと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

現地では英語で先生の授業を受けたり、日本企業では主に日本語で説明を受けました。日本大使館での公共外交に関する講義が印象的でした。

②学習・研究面でのアドバイス

最終発表の際に、プログラムを通して学んだことを反映することが求められるため、企業での説明や講義はしっかりと聞くことが大切です。ただ、発表の準備段階で、自分の学んだことを班員に対して英語でアウトプットする必要があるため、そこは英語力次第です。

③語学面での苦労・アドバイス等

英語での講義の内容が全く分からないことはありませんでした。ただ、発言が求められる機会になると、いきなり話すのは厳しかったです。また、講義や説明を一生懸命聞いて学習しても、それを英語で表現できず自分の班のプレゼンに反映させることが難しい場合も多く、もどかしさを感じました。

生活について

①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

北京大近くのホテルに滞在しました。やや老朽化が目立ちました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

基本的には晴れている日が多く、滞在期間中に雨が降ったのは2, 3日程度でした。大気汚染に関しては、日によって程度が異なり、青空が見えている日もあれば、ひどく霞んで視界が悪い日もありました。食事はホテル近くのコンビニやレストランを利用しました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は特に悪くありませんでした。健康管理に関しては、大気汚染のひどい日はマスクをするように心がけました。また、若干でも体調が優れなければ、日本から持参した風邪薬を服用しました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃は往復で約8万円でした(日本航空、羽田ー北京直行便)。現地では昼食、夕食が自己負担でしたが、食費に関しては日本で外食するのとあまり変わりませんでした。交通費については、北京の地下鉄は日本に比べると約3分の1程度であり、他の交通機関に関しても同様であるため、安く抑えられると思います。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金を60000円受給しました。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
毎日のプログラム終了後に北京市内の観光に行ったり、自由行動の日に現地の学生と一緒に万里の長城を訪問しました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
北京大学からのサポートは特になかったように感じました。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
北京大学の施設をプログラムで利用することはありませんでした。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
今回のプログラムでは、班員や現地学生との英語でのコミュニケーションが求められる状況が数多くありました。自分の英語の力が不十分であることを度々痛感させられました。2週間も意思疎通が困難な状況下で生活したことによって、もっと上手く英語が話せるようになりたいという気持ちが強まりました。また、英語の能力以前の問題として、自分には自信が不足しているために人前で堂々と発表できないという問題もあると分かりました。語学に限らず自分の専門分野の勉強にも励み、根拠のある自信をもって国際的に活躍できる人間になるべく、努力していきたいと感じました。
②参加後の予定
来年には大学院を受験する予定ですが、その先の海外での留学や就職も視野に入れて将来設計に取り組みます。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外経験が少ない人ほど、プログラムへの参加が自分の凝り固まった思考を覆す良い機会になると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありません。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2017 年 9 月 28 日

東京大学での所属学部・研究科等：	法学部	学年（プログラム開始）	学部3
参加プログラム：	UTokyo-PKU joint program	派遣先大学：	北京大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
	1. 研究職	☒	2. 専門職（医師・法曹・会計士）
	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界： ）	☐	6. 起業
	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

北京大学

参加した動機

GLPに所属しており、夏のサマープログラムでこのプログラムを選択した。もともと中国に興味があり、共産主義という国でどのようにビジネスが行われており、日本の企業はそんな中でどんな工夫をし、また、困難を乗り越えながら展開して行っているのかについて学びたいと感じたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

プログラム前に開催される説明会で友達を作り、中国ではLINEなどのSNSが使えないため、Wechatをインストールし、グループを作ること。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザの手続きは特にしていません。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

風邪薬、胃腸薬、絆創膏、除菌シートなど

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

プログラム側で用意された海外保険に加入

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

特になし

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）
TOFEL 115(最高得点)、英検 1 級取得
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
事前にwechatをインストールすること、マスクや常備薬、日焼け止めなど
学習・研究について
①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）
北京大学生とルームメイトとして交流を深めながら、北京大学郊外を見て回ることや、日本大使館や日本企業（キューピー、TOYOTA、seven-elevenなど）を訪問した。それらの経験を通して、最後にグループプレゼンテーションを行い、プログラムは終了した。
②学習・研究面でのアドバイス
中国で展開している日本企業を訪問する機会はなかなかないので、プログラム中、観光時間であまり無理をしすぎず、体調管理に気をつけて日本企業訪問の際に風邪などひかないようにすることがとても大切であると思います。
③語学面での苦労・アドバイス等
基本、プログラムは英語と中国語で、私自身中国語は全く話せませんでしたが、英語が話せば問題ないと思います。プレゼンテーションも全て英語で行われ、講演も中国語と英語両方に翻訳されながらだったので、理解できました。
生活について
①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
ホテルは朝ごはん付きだが、洗濯機がないので、北京大学生（ホテル周辺に住んでいる）に頼むか、自分で手洗いするかの二つしか方法はありません。
②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
日本ではよく中国の大気汚染が報道されますが、基本天候は晴れで、空気もそこまで汚れていませんでした。10日間分マスクを用意していきましたが一枚も使わずに終わりました。食事もそこまで高くないので、近くのレストランで食べました。
③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
治安は東京と変わらない、交通量は多くクラクションがよく鳴り響いている。終盤体調を崩し、風邪をひきましたが常備薬で対応しました。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
食費、交通費、航空賃
⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）
GLPの奨学金
⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
観光に2日間時間がとられており、プログラムの学生とも交流を深められた。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
特になし
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
食堂は一度利用した。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
初めて中国に赴き、環境問題や共産主義について、北京に住む人々についてより深い理解を得ることができた。特に、ルームメイトと夜通し日中関係（領土問題、歴史問題など）について議論を重ね、親交をかなり深めることができた。
②参加後の予定
今後、この経験を生かし、将来弁護士として働くようになったら、日本国内だけでなく、中国の人権問題にも関わっていきたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
中国語が堪能でなくとも、進んでこのプログラムに参加し、英語、中国語ともに語学能力を高める他にはない、学びの多いプログラムになっていると思います。自由度も高く、様々なことに触れ、考える機会になると思うので、ぜひ参加してみてください。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 4日

東京大学での所属学部・研究科等:	人文社会系研究科	学年(プログラム開始時):	博士1
参加プログラム:	第2回国際本部サマープログラム	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☐	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学は、主に文系において中国トップの大学であり、言わずと知れた世界の名門大学である。

参加した動機

博士課程の身として、北京大学のサマープログラムが主題としている「中国において日本企業がどのように成功を収めているのか」というトピックに興味を惹かれたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

私は博士課程だったので、あまり参考になるのかわかりませんが、語学のスコアや成績、単位の関係などはあまり考えずに応募しました。手続きに関しては、様々な書類の提出が必要となるので、計画的にスケジュールを組んで対応することをお勧めします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし。ビザは必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断は問題ありませんでした。常備薬も持って行きました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大が指定していた付帯海学に加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

語学レベルで言えば、私のレベルは全体の中でも低い方でした。概ね自分の意見は英語で伝えられるように英語をメンテナンスしておきましたが、議論を牽引するようなレベルには至っていないものでした。そのため、複数人の中でも英語で臆することなく議論できるレベルに英語能力を準備できるようであれば、それに越したことはありません。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地ではwechatでの支払いなど、現金やカードを用いない決済が主流となっていた。現金での支払いは困らないが、カード払いはほとんどできないので、現金を用意するかwechatなどでの支払いができるように準備しておく必要があると思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

プログラムに含まれているのは、主に教授陣の授業、日系企業への訪問、その他日本の機関への訪問、学生のプレゼンテーションです。授業や訪問を通して学んだこと・感じたことをグループで議論し合い、最後にグループで発表するのがこのプログラムの根幹だと思います。

②学習・研究面でのアドバイス

学習面では、グループでの議論が中心となるので、積極的に英語を用いて発言していくことが求められます。自分の意見が他の人と違うのは当たり前なので、相手のユニークさを受け入れながら、自分のユニークさを伝えつつ議論を止揚することが理想的かと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

参加している学生は、日本人と中国人がほとんどなので、普段は日本語、英語、中国語が織り混ざった会話が展開します。英語能力に自信がない人は、中国語を少しでも身につけておくと、理解できる会話の範囲が広がるので良いかと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

滞在先のホテルがプログラムに含まれていたため、自ら見つける必要はなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は日本よりも涼しく快適。空気は想像よりも全然澄み通っていたが、連日晴れが続くと空気が悪くなっているのを感じた。ホテルは大学の近くにあり、交通機関は基本的に地下鉄とバスで十分。中国のSuicaに相当するカードを買うと移動は非常に楽。食事は日本に比べて圧倒的に安く済み、特に北京大学で食事をすれば10～15元ほど。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

北京の治安はそこまで悪くなく、特に北京大学の学生と行動を共にしていれば問題はないと思います。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃は往復で7万ほど。それ以外は食費、交通費、娯楽費が現地で必要となり、合計で3万ほどあれば余裕があると思います。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金(6万円)を受給した。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
授業・企業訪問などの課外活動以外では、すべての活動がほとんど個人に委ねられています。大体は同じグループの班員と出かけることとなり、食事、観光などを共にすることとなります。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
このプログラムは北京大学側の教授が同行するということはないので、基本的に東大側のスタッフがサポートする体制となっている。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
大学の施設はほとんど利用していないが、北京大学の学生と一緒にあれば大学の施設を利用することはできる。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
このプログラムを通して得られた意義は、大きく2点である。第一に、自分の研究関心に近いプログラムを選んで参加したことによって、中国で展開する日本企業の現状を知ることができた点が挙げられる。このプログラムは自分の研究構想に大きな影響を与え、今後の研究に関する重要な示唆を与えてくれるものであった。第二に、参加していた学生同士の交流を通して、優秀な北京大学の学生と交流することができた点が挙げられる。この点は、語学能力の研鑽以上に、このプログラムにおける魅力だったと感じている。
②参加後の予定
これ以降も博士課程で研究を進めていく予定です。特に中国の日本企業から得られた示唆を用いて、外国人が日本企業の中でどのようなキャリアを想定し、どのように働いていくのかという点を研究していくつもりです。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
北京大学との合同サマープログラムを考えている皆さんに言いたいのは、(1)日本企業に関心がある人、(2)中国との関係に興味がある人、(3)自分たちと似たような境遇である北京大学の学生と交流したい人は、このプログラムに参加することを強く勧めます。英語能力で尻込みする必要はなく、とにかく飛び込んでみて現地で見て、話し、感じることを大事にしてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 9月 22日

東京大学での所属学部・研究科等:	公共政策学教育部	学年(プログラム開始時):	専門職1
参加プログラム:	UTokyo-PKU joint program	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☐	5. 民間企業(業界:)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

中国で一番高い評価を受ける総合大学。

参加した動機

中国についての理解を深めるため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

あまり説明はされないため、自分で調べる事が重要。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは取得していない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

胃腸薬などはあったほうが良い。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校で指定された保険。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等)に関して)

奨学金に関わる書類の準備、保険の加入など。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
IELTS 7.5
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
寒暖差に対応できる服装。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
レクチャーを聞き、会社への訪問を行い、最後には自分たちのアイデアをプレゼン形式で発表する。日本で報道されている中国の姿と実際の中国は異なることを学んだ。
②学習・研究面でのアドバイス
自分から積極的に発言することが重要だと思う。
③語学面での苦勞・アドバイス等
英語のスキルを磨くことが重要。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
用意されたホテルに宿泊したが、ドアがないなどの問題もあった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
近くに大学やコンビニがあり、生活しやすかった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はよく、問題なかった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム費込みで10万円弱

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金6万円
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
現地の学生と万里の長城へ行った。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
現地大学の学生とは交流があったが、大学とは関わっていない。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
使っていない。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
ニュースなどでは伝わらない本当の中国の姿を知ることが出来た。
②参加後の予定
東京大学での活動に取り組む予定。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
実際に行かなければ分からないことがあるので、こうした機会を活かすことが重要である。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
VPNにつなぐことが出来るサービス。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2017 年 09 月 5日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始）	学部2
参加プログラム：	PKU	派遣先大学：	北京大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
	1. 研究職	☒	2. 専門職（医師・法曹・会計士）
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界： ）		6. 起業
	7. その他（ ）		

派遣先大学の概要

北京大学生との合同プログラムでした。北京大学の印象としては、とにかく建物、施設等含めてとても広がったです。工事中の建物、研究室の綺麗さのギャップに驚きました。巡るだけで色んな意味で幅広い発見、経験ができるキャンパスだと思います。

参加した動機

第二外国語として中国語を選択していること。また、圧倒的な競争世界の中で切磋琢磨しているエリートたる北京大学生との密な交流を経験したかったこと。そして、ヨーロッパ、アメリカには行ってみたいけど、中国はちょっと、敬遠する人も多く、色々な偏見も多い中国に行き実際はどうか、自分でしっかりと確かめたかったこと。企業訪問を通して日本での働き方と中国での働き方の違いを実感したかったこと、です。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

常に自分でアンテナをはり、東大のweb siteに定期的に目を通すことが大切だと思います。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

渡航にあたって15日を超えると、色々な手続きが必要と聞きました。15日以内のフライトをお勧めします。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

念のため、A型肝炎、B型肝炎の予防接種をしておきました。が、結果的には必要なかったという印象を受けました。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

大学で自動的に入ることができる保険に入りました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

特にはないです。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

中国語を片言でも少し話せるように2Sセメスターで中国語の授業を自主的に取っていました。また、英語はIELTSの勉強を少しだけしていました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

電子辞書を持っていくと便利です。また、中国では英語が驚くほど通じないので、同じフライトの人と一緒に行くことを強くお勧めします。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

教授、訪問先の企業の方々のお話を聞くというのが主な授業スタイルでした。予習としては、時々事前情報として教授のお話等から情報を摂取していました。復習はファイナルプレゼンテーションにおいて、政治・経済関係のことを取り扱ったので、そこに関わる内容の把握をプレゼン準備期間等にしておりました。印象に残っている内容は、大使館で聞いたお話である『公共外交』です。そのお話を受け政府から民間への働きかけである『公共外交』を、企業から民間へと発展させることを目標としたプレゼンを行いました。プレゼンへの強い示唆を与えてくれた面で、非常に有意義なお話を聞けたと思います。

②学習・研究面でのアドバイス

学習においては、英語ができなければ北京大生との交流ができないため、英語が最重要だと思います。といっても、そこまで高いレベルは要求されていないように感じます。説得できる英語があれば非常に強みになると思います。プレゼンでは、議論が停滞している感じがした時は、極論を投げてみました。今回は、イギリス留学経験もあり、英語も堪能である方がリーダーとなってプレゼンを進めていました。自分に足りなかったものは、批判的思考能力、英語の運用能力、ブレインストーミングなどの議論の方向性を初めに決めること。PPTで大事なことは、形式よりもむしろ中身であること、予想される質問への受け答えなどなどです。これらを、普段の学習からできるだけカバーしておくことが大切です。

③語学面での苦勞・アドバイス等

プレゼンの準備では、自分のグループに中国語を話せる学生が多かったため、グループでのディスカッションが時々中国語で行われ、ついていくことができなかったのが非常に悔しかったです。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

宿泊先は、FXホテルという大学側が予約してくれたホテルに泊まりました。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
気候は初めの1週間がとても暑く、残りの2週間がとても過ごしやすかったです。ただ、雨が降った時は、寒いとさえも感じました。大学周辺の様子は、バイクなどが無造作に通っており、整備されてはいなかったように感じました。交通機関は、現地でPASMOのようなものを購入して使いました。食事はオイリーなものが多かったと思います。お金は、現金を使っていました。
③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
治安は良いです。医者にはかかりませんでしたが、健康管理ではお水類はボトルで購入したもののみ飲みました。また、刺身を食べることは控えました。
④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
航空費50000円、現地で30000円使いました。物価は非常に安いように感じました。
⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）
大学からお勧めされる奨学金に申し込みました。
⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
週末は北京大学生に案内してもらい、万里の長城、天安門広場、summer palaceに行きました。北京ダックを食べることができ非常に充実させることができたと感じました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
語学面では、訪問先の企業では日本語でお話をお聞きすることができましたが、日常レベルでは自力による英語を運用しなければなりません。生活面、精神面では教授に相談などできたため問題ないように感じました。
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
大学の設備は、食堂と研究室をお借りしました。食堂は、決してきれいとは言えませんが、味は非常に美味しく、また値段も安かったです。北京大生と一緒にないと利用できませんでした。また、研究室はとてもきれいで驚きました。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
このプログラムに参加して得たものは、数え切れませんが、やはりともに最後まで勉強し、頑張り抜いた北京大生、東大生の仲間たちです。学習面だけでなく観光地などにも一緒に行き個人的な話もする中で大変深い絆が生まれたと思います。途中で用事等でドロップアウトしてしまう仲間もいましたが、それも含めて、中国人の物事の方眼方を学べました。しかし、やはり人によるところも多く、一般化することはできませんが良い異文化経験ができたと思います。また、グローバルリーダーについても考えることができました。堪能な英語、中国語力、みんなを笑いも交えつつ巻き込んでいく力と深い洞察を持った人に出会えたことはこれから自分の人生を生きていく上でも大変良い刺激になったと思います。

②参加後の予定
これからは、別のプログラムに参加しアメリカのNYに行って、多様性を肌で実感してこようと思います。同時に将来は国際的な仕事をしたいと思っており、そのための下準備という面も含めて行っていきたいと思います。また、来年には交換留学に応募し、歴史的にアジア的気風も欧米的気風も残した国、シンガポールへの1年間の留学を考えています。NUSにおいて非常にレベルの高い学生たちと切磋琢磨し、今回のプログラムで足りないと感じたことを磨いていき、真の国際感覚を身につけた人間になりたいです。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
非常にお勧めできるプログラムです。良質な経験を積みたい人はぜひ応募してみるべきです。絶対に後悔しません。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
地球の歩き方、ペットボトル入りのお水
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 14 日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	北京大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: 外資系コンサル または海外)	☐	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学は中国のエリートが集う世界最高峰の大学で、北京市の中心部に位置しながら広大なキャンパスを有している。文理系の基礎教育および研究を主軸としており、政財界や文学界に多くの優れた人材を輩出している。世界の一流大学を目指して国が重点的にサポートする高等教育機関の一つ。世界大学ランキングでは東大と順位を争う。

参加した動機

一番の理由はプログラムの主題“Understanding Japanese companies in China”が自分の希望するキャリアに大きく関わっていて、強い関心をもったから。また、本プログラムでは英語・中国語を使う機会が多く、これらの言語のスキルを向上させることができると考えたから。さらに、自分は北京大学への交換留学も考えていたので、同大学のキャンパスツアー及び学生交流を通じて雰囲気をつかみたいと考えたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流課から参加手続き説明のメールが送られてくるので、それは事前にしっかりと読んでおくが良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

本プログラムでは、ビザ申請はなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

短期のプログラムのため、特に準備はしなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校から案内が送られてくる、強制加入の「付帯海外」に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
本プログラムは単位認定がなかったため、特に行わなかった。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
IELTS 7.5、中国語は日常会話ができるレベル。ただし、プログラム参加者の語学レベルは様々なのでそこまで気にしなくてもよいと思われる。チームでプレゼンの準備をするときは最低限の語学力が必要になる。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
マスク。北京の空気は夏はさほど悪くないのであまり必要ないが、念のため。現地購入もできる。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
北京大学・東京大学の教授による講義と現地企業へのフィールド・ワークで成り立つ。各半分ずつくらい。予習については、教授から送られてくる簡潔な資料の他に、自分で訪問する企業について調べて質問事項を準備しておくことと良い。企業訪問ではたつぷりと質問の時間をとっていただいたので、深い学びを得ることができた。授業とフィールドワークを通して、現代の中国社会のリアルな姿について知見を深めることができた。
②学習・研究面でのアドバイス
授業やフィールドワークに参加するにあたって、自分なりの観点をもって臨むと良い。例えば私の場合は、自分の将来やりたいことも考え、「企業の社会貢献」という観点から現地の日本企業について考えた。もちろんこれは別で最終日のグループプレゼンテーションのためのテーマに基づいた考察もするが、自分だけの観点を用意しておくことで、それに沿った質問も出来るし、得た様々な知識を自分の軸に沿って体系化することができて、プログラムに参加した意義が倍増するように思われる。
③語学面での苦勞・アドバイス等
言語の壁によってメンバーとのコミュニケーションが上手いかわないとプログラムの楽しさが半減するので、英語は自分でスピーキングをしっかりとっておいたほうが良い。ただ、日中の学生はお互い英語が母国語でないので、あまり難解な表現は使われず、リスニングは問題ないと思われる。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホテルはフロントの対応があまり良いと言えない。英語を話せない場合もあるので、行くときは中国語を話せる他の参加者についていくことを勧めたい。部屋の中の環境はピンからキリまでである。私とルームメイトは運良くスイートルームに泊まることができた。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
天気はとても良く、あまり雨が降らなかった。大学及びホテル周辺は安くて美味しい飲食店がたくさんあり、セブンイレブンなどもあったので、食事などで困ることもなかった。財布は常に身につけていた。プログラム期間中、地下鉄を使うことが多かったため、「一卡通」(日本でいうSuica)をつくった。日本に帰るときに返金できるので安心してつくれる。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は想像したものよりはるかに良かった。プログラム期間中、疲れから発熱した人が若干名いた。先生曰く、毎年のことらしい。プログラムが始まって最初のうちは、とにかくよく休むことを心がけたほうが良いと思われる。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
現地滞在中にかかった費用は観光費・食費・交通費合わせて約1000円だった。(日本円で17,000円くらい) 食事は一食400円かからないくらいだった。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
プログラムにはじめからついているJASSOの奨学金を受給した。60,000円だった。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
自由行動の日が2日間もあったので、近くを北京大学、東京大学の学生たちと観光した。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
(本プログラムでは、北京大学はキャンパスツアーでしか訪れていない。)
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
キャンパスは大変広く、移動はモバイクやオフオなどのレンタル自転車を使う人が多かった。食堂、ジム、購買、図書館、芸術ホールなど、学内施設はどれも充実していた。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
本プログラムを通じて、今日叫ばれている「日中間で協力する」ということがどういうことなのかという実感が少し掴めるようになったと思う。日本から中国に進出した企業が現地の中国人を上手く人材として取り入れて現地化し、発展していく様子や、中国で働いている日本人が時には中国語を話し、時には通訳を挟んで中国人の雇用者と強い絆を築いている様子を見て、日中間の協力に多大なる潜在性を感じた。また、東京大学と北京大学の学生の合同チームで様々な活動ができたことが、今後自分が国境の壁を超えて人々と深い関係を築いていくための良い訓練になった。
②参加後の予定
北京大学への1年間の交換留学を考えているが、当分は司法試験の勉強を優先させたいこともあり、まだ未定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

こういったプログラムに参加できる機会は、東京大学に入ったからこそ得られる大変貴重で意義のあるものなので、迷っているならば是非自信をもって参加してほしい。参加した後と前では確実に自分の中で何かが変わっているのを感じられる。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

オリエンテーションで配られるしおり等をしっかり読んでおけば問題ない。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 5 日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	PKU-UT joint summer program 2017	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

清華大学と並ぶ中国トップレベルの大学。特に文系が強い。学生のレベルはとても高く、活動的でした。

参加した動機

大学卒業後は企業に就職して中国語力を活かしたいと思っている為、日本企業が中国に進出する際の悩みや工夫に興味があり、今回のプログラムに興味を持ちました。また中国の学生との交流を通じて、日中間の考え方や価値観の違いも知りたいと思い、今回のプログラムに応募しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

各書類の締め切りに気を付けて手続きしました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国籍なので必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

中国では手に入らないと思い、いつも飲む風邪薬を持っていきました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

指定された保険(付帯海学)にのみ加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英語については、大学進学後は検定を受けたことがなく正確には分らないのですが、大学の英語の授業(ALESA、FLOW)で教授や生徒と英語での会話ができるレベルです。中国語については、幼少期から日本語と並行して習っており、現在日本語と中国語の電話通訳のアルバイトをしているレベルです。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
北京は日差しが強いので帽子や日焼け止め、週末は自由時間の為観光ができるので観光ガイドブック、中国のお手洗いには紙がない場合が多いのでトイレトペーパー、中国では多くのSNSが規制されて使えないのでVPNコード設定等
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
事前に教授から、訪問する予定の企業の背景知識をまとめたPPTを頂きました。1日目は自己紹介、北京大学でのグループワークで、グループの仲を深めました。その後はグループごとの最終発表のテーマを突き詰めつつ、教授のレクチャー(英語です)を受け企業訪問をしました。企業の方によるお話は主に日本語と中国語で行われます(企業の代表の方が日本語で話してくださり、そのあと企業の中国語ができる職員の方が中国語に直して説明してくださいました)。企業ごとの質疑応答では自分のグループの発表テーマに沿った質問をし、グループ内でもネット上などで情報を集め、プログラム最終日にグループごとに最終発表をしました。
②学習・研究面でのアドバイス
早い段階で最終発表のテーマを決めておくと、企業の方に的確な質問ができ、より深い学習ができ、最終発表の準備もしやすいです。
③語学面での苦労・アドバイス等
中国語ができない東大生と日本語ができない北京大生がほとんどなので、生徒間のコミュニケーションは主に英語です。お店の方や現地の住民の多くは英語がそんなにできないので、その場合日本語と中国語が両方できる生徒が通訳をする必要がありました。ほとんどの通訳はこなせましたが、中国のレストランのメニューの翻訳は難しかったです(中国で生活をしたことがないので初めて見る料理名が多く、写真もほとんどなかった為)
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホテル代は大学側に出して頂きました。基本的に、東大生1名北大生1名で1部屋に宿泊します。ホテルの部屋のグレードがランダムで決められていました。北京大学近辺のホテルに宿泊したので、一部の北京大生は夜北京大学キャンパス内の自分の寮に帰っていました。フロントは英語が通じないので、通訳が必要な場合があります。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
日本より暑く、日差しが強いです。空気は日本にいたときに聞いていたよりずっときれいでした。交通機関は発達しており、地下鉄やバス、タクシーを利用できます。地下鉄のカードを作っておくといいです。クレジットカードが使えない場合があるので現金をある程度持っていくのが良いと思います。中国ではアリペイやWeChatペイが普及していますが、アカウント取得には中国の銀行口座が必要なのでアカウント取得の必要はありません。レストランでみんなでご飯を食べたときは、北大生がWeChatペイでまとめて払って、その後割り勘した額を現金で渡していました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安はそれほど悪くありませんが、車と通行人の関係が日本とは違うので気をつけた方がいいと思います。中国では車は日本ほど通行人に遠慮しません。横断歩道ではたとえ青でも気を付けてわたってください。また(少なくとも現時点の)中国では右折する車は信号に関係なく曲がるので、右折のランプがついた車が走っていたら避けてください。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
プログラム参加費は3万円でした。飛行機代は4万円、その他の費用(中国での食費、交通費、お土産代)は2万円ほどでした。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO奨学金(6万円)でした。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は自由時間だったので、みんなで観光しました。私は頤和園、什刹海、南鑼鼓巷、天安門、故宮に行きました。他に万里の長城に行っている人もいました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
北京大学の学生は親切で、週末の観光のガイドや、中国語と英語の通訳をしてくれました。ホテルと北大生の寮が近いので、洗濯をしてもらった東大生もいました。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂は安くておいしかったです。キャンパスはとても広く、キャンパスツアー時私のグループは自転車で移動をしました。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
初めて中国で教育を受けてきた学生と直接交流でき、日中の学生では考え方(発表の準備で問題に直面した時の受け止め方など)が違ったり、そもそも受けてきた教育や受け取ってきた情報が違うことを身をもって経験できました。企業の方に直接話を聞いたり質問できたのも貴重な経験でした。また東大生、北京大生の学習意欲の高さに刺激を受けました。これからも交流し続けられる、東大生、北京大生の友人ができました。
②参加後の予定
英語で少し危ないところがあったので、英語の勉強を進めていきたいです。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

想定以上の刺激や経験を得られるプログラムでした。航空券の手配、空港とホテルの間の移動、毎日の食事は全て自分で決めて行う為、いい経験になりました。ホテルについてしまえば、プログラム期間中は中国語ができなくても周りがサポートしてくれますし、これからも交流できる友人がたくさんできます。また奨学金が申請できるので金銭的なハードルも低くて良かったです。いい経験になるのでぜひ参加してみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

VPNコードについては理解しておいた方がいいと思います。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月15日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	北京大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学。中国トップクラスの大学。

参加した動機

元々将来大学院などでの長期留学を考えていたが、留学経験が全くなかったため、まずは短期からと考え申請した。英語と大学で学んだ中国語のどちらも活かそうなプログラム内容であっただけでなく、日本企業のビジネスモデルに元々興味を持っていたため応募した。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際本部の方が分かりやすく説明してくださったため、言われた通りにすれば特に問題はなかった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

15日以内であればビザの申請は必要なし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

お腹を壊した時のため整腸薬をいくつか持って行った

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学側から指定されたもののみ。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英語・中国語ともに中級レベル
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
特になし
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
東京大学・北京大学の教授による日本企業の中国におけるビジネスや日中関係などについて講義を受けた。また日本大使館や日中商工協会などの経済団体の方にお話を伺ったり、三菱商事やセブンイレブン、キューピーなどの日本企業を実際に訪れ、事業内容などについて講義を受けた。それぞれ4、5人のグループに振り分けられ、ディスカッションをする時間が数多くあり、最終日にはそれぞれのグループが自ら決めたテーマについてプレゼンテーションを行なった。特にプレゼンテーションの準備段階において、様々なバックグラウンドを持った学生とともに話し合う経験はとても良かったと思う。
②学習・研究面でのアドバイス
常に自分の中で問題意識を持って講義を受けたり企業訪問するのが良いと思う。特に予備知識は必要ないと思うが、最低限の日中関係の問題やビジネス用語などは知っておいて損はないと思う。
③語学面での苦勞・アドバイス等
自分の伝えたいことが多くの場面で(特にディスカッション)英語でうまく伝えられないことがもどかしかったが、常に積極的に伝えようとする姿勢が大事だと思った。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
プログラムであてがわれたもので、宿泊費は無料。清潔感があり、広く、冷蔵庫がない以外はとても満足のいく部屋だった。スタッフに英語が通じない点と、参加者間で部屋のグレードに大きな差がある点が少し気になった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
思ったより空気は綺麗で過ごしやすい環境だった。周辺に最寄りの駅が3つほどあり、交通の便も良かった。クレジットカードは全く使えなかったため現金を持っていくのが良いと思う。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くなく、むしろ地下鉄の荷物検査など日本よりセキュリティチェックがしっかりしているという印象を受けた。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費6万、プログラム費3万、生活費3万で合計12万ほど。航空費は格安会社を使えばもっと抑えられると思う。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
6万円をJASSOから東大を通じて申し込んだ
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は自由行動だったため、万里の長城や故宮博物院など観光を楽しんだ。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
東大側の教授や学生に日中英を使いこなせる人が多くいたのでとても助かった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂はとても安く、量も多くて美味しかった。とても綺麗なキャンパスだった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
講義、企業訪問含む全てのプログラムの内容が非常に貴重な体験となったと思う。また合間合間における現地学生との外国語による交流や、東大側でも違う分野や国籍の様々なバックグラウンドを持った学生たちとのディスカッションや交流は友達が増えるだけでなく自分の視野を広げることにもつながり、将来を考えるのにとっても深い経験となった。また東大側も北京大側も英語が流暢な人が多く、英語の重要性を改めて痛感するとともに、勉強しようというモチベーションとなった。
②参加後の予定
学部勉強と英語を頑張ります。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

少しでも中国や日本企業のビジネスなどに興味があれば、絶対にためになるプログラムだと思うのでぜひ積極的に応募してください

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2017年 9月 11日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始）	学部2
参加プログラム：	PKU	派遣先大学：	北京大学
卒業・修了後の就職（希望）先：			
☒	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士）
☒	3. 公務員		4. 非営利団体
☐	5. 民間企業（業界： ）		6. 起業
☒	7. その他（ 国際機関 ）		

派遣先大学の概要

北京大学は1898年に創立された、中国のみならずアジアでもトップの大学として名高い総合大学です。校舎が建つ地にも長い歴史があり、大学内に歴史的遺跡が多く見られました。

参加した動機

私は元来北京大学への交換留学に関心を持っており、留学に応募する前に、実際に北京大学を訪れ学生と交流したいと考えました。また英語と中国語の能力を高めたいと思っていたため、英語・中国語を用いて教授や企業の方、学生と交流できる本プログラムに魅力を感じました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

書類の不備などにより参加できなくなるのはもったいないため、手続き上の疑問や不安があれば先生や当該の事務局の方にお聞きするのが大切だと思います。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

15日以内の中国滞在ならビザは不要です。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

少しでも具合が悪いところがあれば、出発前に医療機関を受診すべきです（特に歯医者）。常備薬も必須と考えます。今回他の人を見ていると、腹痛と発熱に関する薬が活躍した印象でした。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

大学に指定された保険に加入しました。また前期教養に所属することから、OSSMAへの加入も義務付けられました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

前期教養学部では、留学時に海外渡航届を教務課国際交流支援係に提出しないといけないため、確認が必要です。また、学部2年生は進学選択の手続きとプログラムの開催期間が重複する可能性があるため、手続きに不備がないよう注意する必要があります。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

授業やIELTS、HSKを通して日頃から英語と中国語の学習を行っていました。リスニングの力を伸ばすため英語の番組やプレゼンを時々見たことも役立ちました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ティッシュや綿棒などの日用品は一部ホテルに用意されていないケースがあるため、持って行くと便利かもしれません。中国ではカバンや携帯電話などに目立つキーホルダーをつけることは避け、カバンは口がしっかり閉まるものを選んだ方が安心です。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

東大及び北京大学の教授から計3回、レクチャーをして頂きました。その他、何日にも渡り、主に北京と天津に進出した日本企業の方から業務の説明や中国での取り組み、日中での仕事ぶりの違いなどをお聞きました。プログラムが始まる前、教授から訪問予定の日本企業に関する事前知識をまとめたpptを頂き、予習することができました。教授のレクチャーで新たな視点を得られた上、実際に企業や工場、店舗を訪れることで、その場の雰囲気や経営上の工夫なども感じることができ、有意義な経験となりました。

②学習・研究面でのアドバイス

本プログラムでは最終日にグループに分かれて英語でプレゼンテーションを行います。企業を回りレクチャーを受ける中で、どのテーマをプレゼンで扱うか、グループ内で日頃から話し合うと良いと思います。また、企業の方とお話できる貴重なチャンスですので、積極的に質問することが肝要です。

③語学面での苦労・アドバイス等

学生とのコミュニケーションは主に英語で行われ、中国語が話せる東大生は中国語も使うことがあります。日本企業の方のお話は多くが日本語で行われ、基本的に通訳の方が中国語に翻訳していました。最初は語学面で苦労することがあっても、頑張って会話を続けることで、仲良くなって楽になると思います。

生活について
①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）
宿泊先の手配は東大国際交流課の方などがホテルを用意してくださったため、全く苦労しませんでした。チェックインの時に間違った部屋をあてがわれるなどハプニングも少々ありましたが、私の泊まった部屋は居心地が良かったです。
②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）
天候は晴れが続き、青空が広がっていました。夏季は大気汚染の心配はあまりないと感じます。予備のマスクを用意するくらいで問題ありません。食事は北京大学の学生が大学の食堂やレストランへ連れて行ってくれて、非常に楽しめました。交通カードを現地で入手すると、それ一枚でバスや地下鉄に乗ることができ便利です。私は全ての支払いを現金で済ませました。
③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）
私の滞在先は北京大学の周辺で、治安は比較的良かったです。ただこの国でもそうですが、カバンは口をしっかり閉め、交通機関を利用する際には盗られないよう注意してください。脂っこい料理が多いため、私は意識的に野菜ジュースを買って飲んでいました。
④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）
日本円で3万～4万円持っていくと安心です。本プログラムは、プログラム参加費、航空賃、食費、交通費、娯楽費がかかり、授業料や教科書代などはかかりませんでした。
⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）
本プログラムの手続きを進める中で大学から紹介していただいたJASSOの奨学金を利用しました。支給額は6万円でした。プログラム参加費を鑑みると非常にお得でした。
⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
週末二日間は自由行動が許され、東大生と北京大学の学生と一緒に様々な観光地を訪れたり、おいしいものを食べに行ったりしました。スカッシュなどスポーツを楽しんだ学生もいた模様です。大学構内に大きなホールがあり、機会があれば映画が見られます。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
教授や国際交流課の方が常にいらしかったため安心でした。地下鉄に乗る際の引率やバスの手配等も整っていて、ハプニングや問題はほとんどなかった印象です。学習面でも、先生方や企業の方が質問に親身に答えてくださいました。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
北京大学の学生が自分の研究室を使わせてくれて、最終日のプレゼンテーションの準備がはかどりました。図書館は学生証が無いと入れないと思われますが、食堂は北京大学の学生と一緒に食べることができます。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラムの中で、普段は入れない工場の中を見学したり企業の方から率直なお話を聞けたりして、大変貴重な経験ができました。また物事をより多角的に捉えられるようになったと思います。グループディスカッションでお互いの意見が合わないこともありましたが、それを乗り越えていく中で、文化や背景が様々なチームでどのように結果を出していくか学べました。違う国の人同士で活動する時に国籍を意識しがちでしたが、大切なのは一人一人が何者でどう振る舞うかだ、という友達の言葉を覚えています。国際感覚とは何か、グローバルな社会で活躍するためにどうすれば良いのかなど、将来につながることを考える良い機会を頂きました。
②参加後の予定
日中英3ヶ国語を話せる友達などに刺激を受け、語学に対するモチベーションが上がりました。授業などを通して語学力をより磨きたいです。また、友達を見習って、国際系を中心に課外活動にも積極的に参加したいです。北京大学への交換留学も引き続き検討します。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
今回も多様な専門を学ぶ学生が集いました。ですから所属する学科に関係なく、少しでも興味を持っているならチャレンジすることをお勧めします。プログラムを通してでない限り聞けないようなお話を、教授や企業の方から豊富に聞けて、何らかの形で成長できると思います。また中国で良い友達もたくさん作れます！
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
プログラム開始前のオリエンテーションで、プログラムに関する説明を聞くことができました。また、以前中国に留学した先輩の報告書をウェブサイトから見るができます。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 4 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	東京大学・北京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☐	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☐	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: 製造業)	☒	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学はアジアで最も優秀な学生の集まる大学の一つだ。今回、オフィシャルに北京大の施設を利用する機会はなかったが、北京大の学生と議論できたことは意味のあることだった。

参加した動機

中国へは一度旅行で訪れたことがあるだけであったが、中国人の友人や、中国にルーツを持つ友人と接するなかで中国に強い関心があった。特に近年は科学技術の観点でも中国が世界をリードする分野が増えてきており、工学部を志望する私にとって、中国における産業の現状について知ることはとても意義があると感じられたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

一年生は成績の提出がないため、参加したいと思った理由を熱意をもって伝えることが大切だと感じる。注意が必要なのが資格試験の結果だ。TOEFLだけでなく英検も資格所有の証明書を書類提出時に持参しなければならないため(英検はCertification Card ではだめ)、気を付ける必要がある。私は証明書を紛失していたため、当初と異なる試験の結果を提出することとなった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

15日以内の滞在であったため、ビザは不要だった。延泊する場合は日数によってビザ申請が必要なので注意が必要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

予防接種などは必要ないと言われているが、別の国に行く予定もあったため、渡航前にまとめて腸チフスとA型肝炎の予防接種を受けた。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で指定された海外旅行傷害保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特段手続きは行わなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

初修中国語をSセメスターで受講していたが、プログラムで通用するレベルではなかった。英語は出発前にIELTSを受験したため、その対策も兼ねて多少勉強した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

今回利用したホテルはランドリーがなかった。手洗いできるように洗剤などを持っていくとよい。また、WeChatのダウンロードとVPNの対策をしていく方がよい。ホテルと北京大でWifiが利用できるため、現地のSIMを利用する必要はあまりない。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

プログラムの内容は主に3種類に分けられる。一つは東大と北京大の教授による講義だ。日中関係について、いくつかの側面で分析したレクチャーが行われる。二つ目は中国に進出する日本企業への企業訪問だ。企業の人に話を聞き、質疑応答をする中で日中の経済的関係、そしてその背景にある政治的・文化的関係への理解を深める。最後に、グループディスカッションだ。4, 5人のグループに分かれてテーマを見つけ、プログラムで学んだことを基にして研究調査し発表するというものだ。授業や企業訪問での内容をノートにとり、それをグループディスカッションに生かすことが求められる。

②学習・研究面でのアドバイス

ある程度早いタイミングでグループ研究のテーマを固めておくことをすすめる。企業訪問はプログラムの前半に多いため、テーマを早めに決めておけばそれに基づく質問を質疑応答でして、ディスカッションをより深いものにできるからだ。また、企業訪問では積極的に質問することが大切だ。休憩時間などに手の空いていそうな人を見つけて聞くのも手であると思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

英語が共通言語だが、北京大の学生もネイティブスピーカーではないため、多少英語が拙くとも気にする必要はない。下手な英語でも、とにかく伝えようと努力すればわかってもらえる。企業訪問では日本語と中国語の併用であることが多く、英語に自信がなくても積極的に質問できると思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学で指定されたホテル(宿泊費は補助)に滞在した。人によって部屋のランクが異なった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候は日本の夏と同様と考えて差し支えない。幸運なことに快晴の日も多かったが、あまり天気は期待できないらしい。北京大学の近くのホテルだったこともあり、レストランなどは周囲にたくさんあった。また、北京大内の食堂をよく利用した(北京大学内には北京大生と同行していないと入れない)。近くに7-ELEVEnをはじめコンビニもあった。お金は現金とプリペイドカードを利用した。VISAはあまり使えない。日本で銀聯のプリペイドカードを申し込み利用したがとても便利だった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
北京の治安は、東京ほどではないもののとても良い。ただし、道路は注意して歩く必要がある。夜も明るいところであれば一人であるいても問題なかった。医療機関は利用しなかった。しかし環境の違いもあり体調を崩す人も多かった。休息をきちんととることが大切だと思う。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費 5万円強 プログラム参加費 3万円 食費・娯楽費 2.5万円程度 ホテル代は全額補助。奨学金が6万円。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの奨学金6万円を受給した。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は万里の長城や故宮を観光した。また、グループメンバーの誘いで北京大の施設でスカッシュをした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
北京大の学生が大学や市内を案内してくれ、充実した時間を過ごすことが出来た。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂はとても安く、味も良い。スポーツ施設は予約なしで利用可能なものもあるが、北京大の学生に確認する方がよい。北京大学の限定ショップがあり、比較的安価でお土産を買える。グループディスカッションは北京大内の空き教室で行い、その施設は充実していた。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
これまで抱えてきた中国のイメージが、日本で得られる情報に基いた、バイアスのかかったものであると気づき、北京で生活するなかで自分の中で新しい認識ができるようになった。北京大の学生はとても知性的で中国人としてのアイデンティティや立場を理解した上で論理的な議論をする。むしろ日本人の方が感情的になっているのではないかと思う場面もあるほどだった。彼らと政治・経済といった話から好きなアニメの話まで、2週間という短い期間ではあったができたことは貴重だった。

②参加後の予定

中国語の重要性を感じたため、少しでも語学面で向上するように努力したい。また、より長期の留学に向けた準備を進めていく。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

北京の街を歩き、人と語り、会社を学ぶ体験はかけがえのないものになるはずだ。

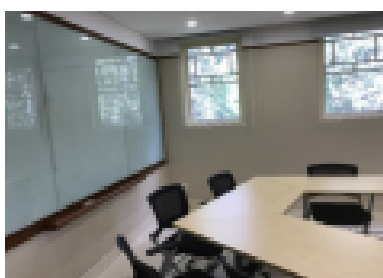
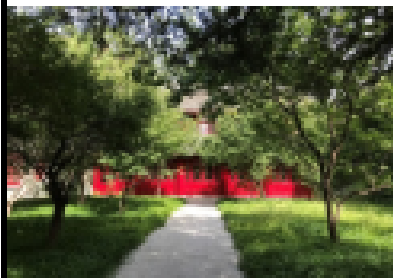
その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

プログラム体験記

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

グループディスカッションで利用した北京大の校舎と教室



The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)

Date: 09/02/2017

Faculty/Graduate School at UTokyo:	College of Arts and Sciences	Year at the time of Study Abroad	B1
Program Attended:	PKU-U Tokyo Joint Summer Program 2017	Host University:	PKU
Occupation after graduation (intended):			
☒	1. Research		
☐	2. Specialist (Medical・Judiciary・Accountant)		
☒	3. Civil Service		
☒	4. NPO		
☐	5. Private sector (Type of industry:)		
☐	6. Entrepreneurship		
☐	7. Others ()		

Outline of the receiving institution overseas

PKU is one of the top universities in China and it has various disciplines.

Reason why you decided to participate

I decided to participate because the content of the program interests me. The program offers lectures and field trips to various Japanese companies and institutions in Beijing and students have the opportunity to understand what kind of difficulties Japanese companies have overcome or still been facing in opening market in China as well as thriving in Chinese market.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

Do not hesitate to ask staffs in charge of studying abroad if you have any questions.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

I do not need a visa.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

I did not have any medical check-ups.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)

It is important to pay the insurance before departure.

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)
This program is relatively easy and does not ask for course registration or exams.
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
I do not need prepare since I can speak Chinese
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
Take some masks and typical medicine (cough, fever, etc.) with you.
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
We had three lectures from three different professors, ranging from the difficulties Japanese companies are facing to lessons Japanese companies should learn as well as the sino-Japan relation in terms of political science. Plus, we had many field trips. For example, we visited JETRO, Japanese embassy in China, Mitsubishi corporation Beijing branch, kewpie company, etc. On the last day, we have group presentations considering the two weeks we've spent in Beijing and have Q&A sessions for each group.
(2) Advice on aspects of academic/research work
Because the time was very short for this program, we could not have a large scale of research work for our presentation. I would recommend that students should start brainstorming as early as possible so that they can have more time to do research work. Also, since it is a group work, it is important to have everyone in the group involved in the research work as a team and students should speak out their ideas in discussion which could be the research topic in the final presentation.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
Not really.
Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
The hotel we stayed was really nice. The room was very big for 2 people and the shower room had bath. The breakfast was included during the whole program and it was okay.

(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
Should be cautious of the weather when the air quality is bad in Beijing. Luckily, during the program, the air quality was pretty good. The transportation was really convenient because you can use bus, subway, and ofo share bikes. Beijing as the capital of China has all sorts of food from everywhere. the alipay and wechat pay are very popular so many people living in Beijing actually take their phones with them rather than cash.
(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
It's quite safe from my perspective. But it should be emphasized that DO NOT PLAY TOO MUCH DURING FREE TIME because some students got too tired and sick.
(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
The program fee is ok but be sure to book the flight as early as possible to get cheaper ones. The average living cost in Beijing is much lower than it in Japan especially watermelons and food!
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
I got a scholarship of 60000 yen from UTokyo and very appreciated. It reduced my burden of paying the whole airfare.
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)
We went to the Great wall and ate Beijing duck during weekend. Besides, we had hotpot and karaoke for fun.
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
PKU students are very welcoming and show us around the campus as well as Beijing. Because the whole program took place basically at the meeting room in the hotel, PKU students took the role of receiving us actively.
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
The PKU cafeteria is a recommended place to eat for its cheap price and variety of food if you have PKU student card or ask PKU students to take you there.

Looking back over the program
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad
I find the program very impressive in a way that as a Chinese I've never had a chance to get to know Japanese companies in China that well whereas this program gave me the opportunity. I learned how sino-Japan relation has been evolving these days and what things people could do to improve the relationship in terms of public diplomacy.
(2) Your plans having studied abroad
I want to study abroad in other countries as I saw how the productive cultural exchange as a soft power can enrich one's life and have a broader view of the world.
(3) Any messages or advice for future participants
Studying in a different country is both interesting and challenging.
Miscellaneous
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas
The UTokyo OPAC system is very useful for doing research.
(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9 月 13 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教育学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	PKU	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
☒	1. 研究職	☐	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
☒	3. 公務員	☐	4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: IT)	☒	6. 起業
☐	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学の学生が15人参加予定だったが、一部の生徒は参加しなかったり、途中脱退したりした。

参加した動機

中国人であるという立場からもと中国への留学を考えていて、たまたまみかけた本プログラムの内容が納得のいくものであったので申し込みをした(例えば、留学先が中国トップの大学である北京大学であったことや、在中日系企業への訪問などに興味を持っていた。)

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし(中国国籍なのでビザの申請は必要なかった)。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬だけ持っていた。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校で指定されている保険に加入した。実際、帰りの際にスーツケースが損傷したので、保険に入っていてよかった。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

プログラム前後でいくつか提出する書類はあるが、そこまで大変なものではなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英語での会話がメインなので英語で意思疎通ができることは最低条件として必要。ただ、中国語でコミュニケーションを取る機会も多いので中国語が多少できるとうまく楽しめると思う。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
一度雨が降って気温がかなり冷え込んだ時があったので、一着くらいは長袖を持つことをすすめる。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
日本企業など日本に関わる場所への訪問がプログラムのおもな内容であったが、普段は聞くことができない話、具体的には企業の経営内容など、について話を聞く機会が多くよかった。また、東大北京大の両方の教授の講義も設けられており、両大学の教授方と直接交流する機会もある。積極的に経営者のかたや教授方に質問をすればするほど良い。
②学習・研究面でのアドバイス
異文化の地においても、異言語を話す地においても、積極的に現地の人とコミュニケーションを取りに行くという気持ちが一番大切であったと感じる。
③語学面での苦勞・アドバイス等
英語は会話、聞く能力がある程度できることを前提とした上で、中国語に対する理解または興味があると、北京大学の学生との交流がかなりスムーズに進む。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
宿泊先のホテルの部屋は無償で提供されたが、少し粗雑だった。また、Wi-Fiもかなり遅い。生活は十分にできる。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
現金を十分に持っていればなんとかなる。中国では今、アリペイなどでの支払いがかなり普及しているので、現金でのやり取りのほうがかんたんになっているが、なんとかはなる。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特になし。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
5～6万円(別途にプログラム費用3万)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
指定されているものを受給した。(6万円)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
自由時間の際に北京大学の人たちと北京の有名な観光地を一通り回った。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
参加自体へのサポートは特に不満はない。ただ、現地に入ったあと、基本先生方は放任主義を取られるので、自分で色々計画を立てる必要がある。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
ホテルでの活動が多かったが、Wi-Fiがとても遅く、かつ繋がりにくくて不便だった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
中国語を積極的に使うようにしていたので、短期間ではあったが、プログラム前後で、中国語に大きな成長を感じることができた。また英語に関しても、英語の運用能力が高い人が東大にも北京大にも多く、大きな刺激となった。
②参加後の予定
英語の能力がまだまだ足りていないと感じたので、英国圏への留学のためにも、IELTSなどの英語力検定試験を受験しようと思う。そのためにも英語の勉強にはもっと勤しみたいと感じた。英語を第一言語とする留学生の友達を増やしたいと感じた。また、中国語に関しては、東大に入学して4ヶ月の間、既習中国語の授業に必死についていったおかげで会話力、語彙力共に伸びていると感じられたので、同様の努力をこれからも続けたいと思う。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
英語の語学力を十分備えていないと、北京大の人との交流や、教授方の講義、またプレゼンテーションを存分に享受することができないので、しっかりと備えておく必要がある。また、中国語に対する理解や興味があればあるほど北京大の生徒との交流や現地での生活がより楽しくなるので、そういった意識を持つと良い。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 09 月 07 日

東京大学での所属学部・研究科等:	総合文化研究科	学年(プログラム開始時):	修士1
参加プログラム:	北京大学・東京大学合同サマープログラム(PKU)	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

中国の最高レベルの大学の一つ。

参加した動機

中国の文化に触れたかったことと、海外における日本企業のビジネスについて興味があったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類の通りに行った。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍であれば15日以内の滞在はビザ不要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定のものに加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英語はある程度話せるが、中国語は少しフレーズを知っている程度。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
ネット規制があるので中国でVPNを使えるように事前に調べておくとよい。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
主な活動は講義3回とフィールドワークとグループワーク。フィールドワークでは現地の日本企業や大使館などの公的機関を訪問したり工場見学したりもした。最終日にグループごとにプレゼンをするが、そのためのリサーチやディスカッションなどもした。全体的にとっても充実したプログラムで貴重な経験をすることができた。
②学習・研究面でのアドバイス
特に専門知識は必要ないが、中国の歴史について簡単に勉強しておけばプログラムに役立つだけでなく観光も楽しくなると思う。
③語学面での苦労・アドバイス等
中国語はできなくても問題ないが、少しでも勉強しておけば様々な場面で役に立った。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
北京大学の近くのホテルに宿泊。部屋によって当たりはずれがあったようだが、生活には問題なかった。近くにレストランやコンビニもあり、立地も良かった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候はほとんど東京と変わらない。大気汚染もプログラム期間中は全く問題なかった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特に問題はなかった。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券往復約6万円。現地での食費、交通費、娯楽費などすべて含めて約3万円。宿泊費は無料。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO奨学金
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
土日は北京大学の学生たちと万里の長城や北京市内などを観光した。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
北京大学の学生たちはとても親切にしてくれて様々な場面で助かった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
ほとんど大学の施設は使わないが、キャンパス内へ入る際に手続きが必要なのが面倒だった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
中国について今まで自分の中にあった固定観念が良い意味で壊されたと思う。フィールドワークでも普段の学生生活ではできないような貴重な体験をたくさんすることができた。また能力の高い北京大学の学生たちと意見交換することは自分にとって良い刺激になった。
②参加後の予定
英語と中国語の勉強へのモチベーションが上がった。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
異国の文化に触れることと海外の優秀な学生と交流することは、とてもいい勉強になると思います。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月26日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	PKU U-Tokyo Joint Program	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界: コンサル)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学

参加した動機

来年度四月より大学を卒業し、外資系のコンサルティングファームで働くにあたり、入社前にグローバル展開している日本企業が中国という大市場にいかに対応しているのかを知りたかった。特に当プログラムの実際に複数日本企業を訪問し実際に企業内部を覗くことができる点に強い魅力を感じた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

10日間ほどのプログラムなので、ビザを申請する必要はなかったが、事前に保険に加入しておくことは必須である。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

10日間のプログラムなのでビザ取得の必要はない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に予防接種などは打たなかったが、現地での健康問題はなかった。食事や気候が合わないことも考えられたので、日本から胃薬等の常備薬を持参した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

株式会社第一成和事務所経由で保険を申し込んだ。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
事前に日常会話レベルの中国語には目を通した。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
現地で体調を崩すことも考えられるので、常備薬を持参することが望ましい。また特に冬場は空気の汚染度が高まるので日本よりマスクを持参すべきだと思う。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
プログラムは10日間。学生の参加者は三十人ほどで、北京大学と東京大学の学生はほぼ同数。また学部生と修士以上の学生の数もほぼ同数であった。プログラムは、東京大学の教員や外部の講師による講義と、中国本土に展開する日本企業の訪問の2つからなる。参加学生は6チームに分けられ、「中国に展開する日本のグローバル企業」をテーマに、各チームが講義や訪問した日本企業を参考にし、調査を進め最終日に成果物を発表するという形式であった。テーマ選択やリサーチの進め方は学生に任されており、比較的自由度は高かった。
②学習・研究面でのアドバイス
プログラムを通じて数回行われる講義は中国と日本の政治的・経済的・歴史的関係性を学べる貴重な機会なので各チームのリサーチテーマと関係なくてもしっかり聞くべき。また企業訪問の際には、疑問を感じた場合はその都度訪問先企業の社員の方々に質問を投げかけるのが良いと思う。自らの訪問企業に対する理解度が深まったと同時に、訪問先企業の方々も積極的な質問は歓迎するとおっしゃっていた。
③語学面での苦勞・アドバイス等
北京市内においては基本的に英語は通じないと考えた方がよい。そのためできる限りプログラムに参加している北京大学の学生と行動を共にするのが良いと思うが、やむをえず日本人だけで行動する場合は簡単な中国語の日常会話を集録しているガイドブックを持ち歩くのが良いと思う。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
北京大学から徒歩5分ほどのところにある、FX Hotel。宿泊料金はプログラム参加費に含まれており、毎朝バイキング形式の朝食もついてきた。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
8月半ばにプログラムに参加したが、基本的に晴れた日が多く、空気の汚染度も低かった。大学周辺は比較的栄えておりレストランやコンビニ等も多数あった。基本的に交通手段は地下鉄である。食事に関しては生野菜は避けるようにした。また北京市内はクレジットカードがほぼ使えないので、事前に十分な現地通貨を用意するか、日本でプリペイドカードなどを用意しておくのが望ましい。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安自体はそれほど悪くないが、貴重品管理には十分注意する必要があると現地の北京大学の学生に言われた。食事面に関してはできるだけ生野菜は避け、火を通したものを口にするようにした。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券代は東京北京間で往復7万円程度。プログラムの料金は3万円。現地では食費や観光代、交通費等を含めて4万円ほど使った。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
GEFiLプログラム経由。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
プログラムの期間は短かったが、北京大学構内のジムでスカッシュなどができた。また週末は万里の長城や北京市街の観光もした。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
東京大学から引率に来てくださった園田先生や丸川先生が語学面や教育面生活面等の広範なサポートをしてくれた。生徒と引率教員の距離は非常に近く安心感は大きかった。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
外部の人間が大学に入るには北京大学の学生の同行が必須。大学内の食堂に関しても料金支払いの際に北京大学関係者専用のプリペイドカードが必要。ジムや図書館などもあった。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラムを通じて、日中関係に関する理解は非常に深まったと感じる。特に2012年以降緊張感が高まった、政治レベルでの日中関係の悪化が、日系企業の個別活動にどのような影響を与えたのかという点に関しては、講義や日系企業訪問を通じて理解が深まった。日中間の政治関係や経済関係を現地の北京大学の学生とともに議論したことは自分にとって非常に学びの多いものであった。
②参加後の予定
今回のプログラムを通じて、学んだ政治的・経済的・歴史的な日中関係に対する理解をより一層深めたいと感じる。同時に現地学生とのグループワークを通じて感じた語学面での障壁克服のために語学学習に努めたい。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
約2週間ほどと、期間自体は短いが北京大学の現地学生と共に日中関係を再考できる非常に貴重な機会だと感じる。また現地の日本企業も複数訪問できるため、マクロレベルでの日本と中国の関係性の変化が各日本企業に対してミクロレベルでどのような影響を与えているのかも学ぶことができる。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

--

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
--

--

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017 年 9月 25日

東京大学での所属学部・研究科等:	農学生命科学研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	北京大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先: 民間企業			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
☒	5. 民間企業(業界: メーカー)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学。中国の政治や文化の中心である北京に位置し、中国最高峰の学府。

参加した動機

本プログラムで経験できる、他のバックグラウンド(国籍、専攻、学年など)を持った学生との共同作業から、就職先後も活かせる多くのことを学べると考えたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

飛行機は直前になると高くなるので、早めに予約したほうが良いと思います。必要書類がいくつかあるので確認が必要です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

15日以内の滞在だったのでビザは不要でした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬は持っていきました。その他は特にしていません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

必須の保険「付帯海学」に加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等)に関して)

試験・授業には重なっていませんでした。指導教員からのサインは必要でした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
英語日常会話レベル。中国語は全く話せません。英語でのディスカッションは大変でしたが、同じ状況の人とは共に頑張れますし、語学堪能な人は助けてくれるので、そこまで心配することはないと思います。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
電子辞書。または翻訳アプリのインストール。また中国はネット規制が厳しいので、通信手段の確保を日本でやっていたほうが便利です。ホテルのWifiも階によっては弱かったです。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
日中関係の様々な側面についての講義を受け、中国進出している日本企業のオフィスや工場を見学します。それらから学んだことを活かし、生徒が自由に決めたテーマについて英語でプレゼンテーションします。日本で著名な企業であっても、中国市場独自の点があり、興味深かったです。
②学習・研究面でのアドバイス
訪問する企業や団体は年によって変わるようですが、どこであってもそれぞれに面白い体験ができると思います。また、私は理系の学生なので、中国と日本の政治的関係についてこれまでに聞いたことのない詳細な話を伺えて、とても良い経験になりました。今後中国人をはじめとした国外の方との関わりは不可欠だと思うので、こういった話は理系の学生であっても知っておくべきだと思いました。
③語学面での苦労・アドバイス等
英語でのディスカッションは正直とても大変でした。私は英語能力が十分でないので、日本語でのディスカッションの3倍は疲れたと思います。しかし今後に活きるとも良い経験になったと思います。また、想像していたより中国語を使うべきシーンが多くありました。北京大の学生や、東大の中国語を話せる子たちが助けてくれました。
生活について
①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学が用意してくださったホテルに泊まりました。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
想像していたよりは大気汚染を感じませんでした。綺麗に晴れた日もありました。北京大学の学食は安くてメニューがとても豊富なのでおすすめです。クレジットカードでの支払いはまだあまり使われていないので、現金を用意したほうが良いと思います。(現地の人々はネット支払を多用していました)
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安等は特に問題ありませんでした。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
参加費3万円、航空券約4万円、現地での費用約4万円(食事代、お土産代、交通費など)
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO奨学金6万円
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
週末は北京大・東大含めた一部学生と北京周辺の観光地に行きました。個人的に延泊し、そこでも観光しました。
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
北京大の教授含めすべての講義や企業訪問において、中国語だけで進行されることはなく、日本語か英語も用いられます。また、担当教員の皆様は学生の体調を気にかけて下さっていると感じました。また、北京大学の学生はとても親切にしてくれました。観光地を案内してくれたり、レストランで通訳してくれたり、寮で洗濯してくれたり、とてもありがたかったです。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
講義はホテルの会議室で行われていたため、プログラムで北京大学を利用することはあまりありませんでした。北京大の学生と一緒に大学内に入れるので、カフェテリアは使用しました。前述の通り、とても良かったです。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
理系の勉強だけをしていては関わらない、政治的な問題を知ることの重要性を学びました。私は自分で積極的にそういったことを知ろうとしてこなかったため、本プログラムはとても良いきっかけとなりました。また、当初の参加動機であった、他学生との共同作業は、使えるリソース(時間、調査手段など)が限られていて、さらに使用言語が英語だったため、大変でした。しかし、こういったプログラムに参加しないと経験できない挑戦ができたので、とても良かったです。
②参加後の予定
就職後のためにも英語力をもっと高めたいと思いました。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
私は学生最後の年にこのプログラムに参加しました。私が得た学びはもちろん就職後にも生かしますが、もっと早く経験していれば将来の道ももっと幅が広がったと思います。本プログラムはとても手軽で、国際的な経験のきっかけを探している方にはとても良いプログラムだと思います。ぜひ活用してください。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
北京のガイドブックは持っていきました。プログラム中の週末の観光だけなら必要ないかもしれません。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。